

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成27年12月1日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	第 4691200218号
法人名	株式会社ケアサポート霧島
事業所名	グループホーム きりっま
所在地	鹿児島県霧島市霧島大窪63-2番地 (電話) 0995-64-8095
自己評価作成日	平成27年10月22日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成27年11月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームきりっまは霧島山麓の豊かな自然環境の中、美味しい空気を身体一杯に取り入れ気持ち良く過ごせる場所にある。周りの景色は四季折々の花々が咲き誇り、近くの神社に散歩がてらお参りをしたり、足湯のサービスを利用したり、近隣のスーパーへ買い物と一緒にいくなど、外に出る機会を多く持つように取り組んでいる。又、園庭に畑を作り、収穫した新鮮な野菜を食べて頂く。日々自然と触れ合っていて楽しく暮らしていただけるよう「家庭的な環境」を大切にしている。職員は常に3Kのこころ(感謝の心・謙虚の心・共感の心)を持って五感を使って良く観察し、報告・連絡・相談を心掛け早期発見・対応に努めている。生活のパートナーとして、利用者様・ご家族に接し一日一日を張りのある充実した生活が送れるように努めている。運営推進会議を軸に地域との関わりを深めるように努力している。また主治医との連携を徹底し定期的な医師・看護師による往診・緊急時は24時間対応して頂ける関係である。常に一人一人のニーズにあわせ個別の関わりを重視し人生の大先輩として敬いの心を持って接している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

霧島連山の麓、自然環境に恵まれたのどかな田園地帯に立地し、ホームからは日豊線を通る列車も見られ、周辺の田んぼの様子や遠くの山の景色はホームにいながら四季を感じさせてくれる。
敷地が広く、気候のいい日は東屋でお茶を飲んだり、近隣住民がお世話してくれている畑の収穫を楽しんだり、立地環境を活かしてホームに閉じこもらない生活が送れている。また、ホーム全体ウッドデッキに囲まれており、居室からも自由に出入りできることから居室にいても閉塞感がなく、日常的に近隣住民、友人知人、家族の来訪も多く地域に開かれた開放的なグループホームとなっている。
外出の機会も多く、季節ごとに初詣、花見、ホテル見学、花火大会、紅葉狩り、足湯などに出かけ、回転寿司やラーメン店、ファミレスなどの外食も利用者に大変喜ばれている。日常の食事「食」が楽しみなものとなるように畑の野菜や旬の食材をふんだんに使用し、安全面に配慮して調味料から手作りにした栄養バランスのいい高齢者に喜ばれる家庭的な献立となっている。
職員の離職が少なく、ほとんどの職員が3年以上勤務しており働きやすい職場環境は次のステップに向けた資格取得へのチャレンジに繋がり、職員の自己研鑽意欲に結びついている。また、職員間のコミュニケーションが図られ、利用者との馴染みの関係とより質の高いサービスの提供が利用者の心身の向上に繋がっている。加齢に伴う重度化は現実ではあるが利用者が穏やかな日々を送れていることに家族からの感謝のコメントが多数寄せられている。管理者・職員は現状に満足することなく更なる質の向上に向けて意欲的で今後のさまざまな取り組みにも多に期待できるグループホームである。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念「一人一人の個性を活かしたゆとりある生活と家族の絆を大切にします・地域の中で交流の場としての環境を作り安心して癒しのある生活を大切にします」理念は見える所に掲示し職員の目につきやすい仕化にも貼っている。	理念は毎朝唱和する機会はないが目につきやすい職員用トイレに掲示して日々の意識付けを行い、全体会議時に唱和して理念の確認と振り返りの機会を設け共有と実践に繋げている。また、各ユニットごとに毎月の目標も作成してより質の高いサービスを目指している。来訪者の目にもつきやすいように霧島の風景の写真をバックにして玄関に掲示している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	昨年度から地域の広場事業を導入し・毎月近隣住民の方々と交えボランティアに来ていただいたり一緒に取り組みやすい行事を共に作成し参加し日常的に交流をしている関係である	自治会には加入していないが、地域の広場事業の一環として近隣の方が畑仕事やホームの行事に余興で訪れるなど地域とは良好な関係が築かれており、地域に開かれたグループホームとなっている。近隣の保育園との交流もあり、運動会見学に出かけたり園児たちの訪問もある。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	ライフサポートワーカーを取得し。近隣住民の方々が気軽に立ち寄れるサロン会を開催し認知症予防教室を定期的実施する等の取り組みをしている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度・民生委員・御家族代表・行政・消防署・警察署・近隣の保育園園長・老人会会長・婦人会会長・職員の参加で開催している。毎回テーマを決めて討議し意見交換を交わしサービスの向上に活かしている	婦人会長・老人会長・民生委員・消防署・警察署・保育園長・家族・行政等の幅広い分野の方々の参加が得られ2カ月に一回開催している。ホームの状況報告、時には日常の生活の様子をDVDで鑑賞してもらうこともある。地域の防災対策や困難事例についての話し合いや消防署・警察署からの助言などホームの安全対策やサービス向上に活かされた会議となっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議時に地域包括支援センター職員が参加し、質疑応答等を実施している・市の担当者にはサービス提供に関する日常的な疑問・相談等を実施している。	相談や助言をもらうなど、必要に応じて市の担当者とは連携を図るよう努めている。また、市主催の福祉事業等にも参加している。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束になり得る状況等を常に話し合い考え身体拘束委員会を設置し身体拘束にならない仕方を見つけだし「身体拘束排除宣言」を掲げケアに取り組んでいる	運営規定及び重要事項説明書にもホームの方針を明記している。身体拘束委員会を設置し、定期的に勉強会を行っていかなる場合にも拘束のないケアの実践に取り組んでいる。居室の周りにはウッドデッキがあり、直接出入りできる開放的な環境である。日中は玄関の施錠などせずに職員の連携で安全で自由な生活を支援している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常に利用者様の立場になり利用者様の人権を尊重する考えを忘れず周りとも連携し間違えのないケアを行えるようにしている。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自立支援については、プラン作成より検討し職員はプランに沿って支援している。成年後見制度については、職員が理解できるように勉強会を行い資料回覧等を行っている。家族には契約時及び必要時に概要の説明等の情報提供を行い手続きの支援を行っている			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	本人様・家族様にとって不安なことや意見・疑問点を尋ね十分に説明を行って理解、納得の上・契約をしている。解約についても同様にしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様との日常の会話を通じて苦情や意見をくみ取るように努めている。家族には運営推進会議や面会時を利用して意見や思いの表出に努めている。玄関に意見箱も設置しており、内容に応じてその場での回答や、職員会議で検討した後に回答するなどの取り組みをしている。	家族の来訪時や電話連絡時、担当者会議、家族会等に意見・要望を聞き出すように努めている。家族会には多数の家族の参加が得られており職員もコミュニケーションを図るように努めている。出された意見・要望については全体会で話し合い、運営やサービス向上に活かしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議や日常的な会話の中で意見やアイデアを提案しやすい雰囲気作りに配慮し、検討の上・運営に反映させている。	毎月全体会と各棟ごとのミーティングを全員参加で行い、意見・提案を話し合っている。職員からは活発に利用者の処遇やサービス向上のための意見が出され、運営に反映させている。離職がほとんどない事業所で就業環境も整備されて働きながら次のステップに向けた資格取得の支援も行われている	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の都合を出来るだけ反映させた勤務体制とし、意見を取り入れ、やりがいにつなげるように配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>個々の自主的な研修参加に配慮している。研修後は報告書を回覧・研修報告会の勉強会をおこなっている</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>相互研修に参加し、交流、意見交換の場となっている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入所前に訪問調査を行い、情報収集を行い、本人様の要望に対応できるように努めている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入所前に本人様と一緒に見学に来て頂いたり、事前に不安や要望を聞き、より良いサービスに繋がるように取り組んでいる。ご家族様とのコミュニケーションを大切にし、意見・要望を離しやすい雰囲気作りをしている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人様とご家族様の意向をしっかりと把握し、安心してサービスを受けられることができるように努めている</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>残存能力に応じ、洗濯物の整理や食事の準備、後始末など日常の家事や他菜園の世話、収穫等も職員と一緒にしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の気持ちに寄り添い御家族様の意向を聞きながら、本人様と良い関係が築けるようにしている。又、御家族様にできることは協力して頂いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族様・友人・知人の面会時には、ゆっくりと過ごして頂くよう雰囲気作りにも心掛けている。	本人の希望による一時帰宅やお墓参り、美容室の継続利用など関係が途切れないように支援している。また、家族や友人知人の訪問も多く開放的で訪ねやすいホームの雰囲気作りに配慮している。携帯電話を所持している利用者もおり、話したい時に家族にかけられるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様のできることを、できないことを把握し、その方が力を発揮できるように声掛けを行ったり、一緒に行事に参加して頂いている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院のための退所は入院先を訪問したり、お便りを出す等して御家族の相談にのったり、アドバイスを行っている。没後においても初盆には挨拶に行き顔を出している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の行動、言動、表情を観察し、その中で思いや希望を把握するように努めている。御家族にも情報を聞く様にしている。	日常の会話から思いや意向を把握するように努め、会話が困難な方からは表情や言動、家族や関係者からの情報で本人本位に検討している。特に居室や入浴時対一の場面ではいろいろな話をしてもらえ事から傾聴に心がけている。また、一方的な決定はせずに、話題を投げかけて選択してもらうなど思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の情報収集や日々の暮らしの中での様子やサービス状況等、経過シート等を用い情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりが個々のペースで生活できるように支援している。現状の把握に努めているようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	申し送りやカンファレンスの中で、利用者様についての情報交換や確認を行い現状にあったケアができるようにしている	より良く生活出来るように課題とケアのありかたを本人・家族と話し合って本人本位の介護計画を作成している。また、モニタリング表を作成し、日々評価しており、見直しや職員間のケアの統一に活かしている。変化があれば都度見直しを行い、変化がなくても定期的に見直しを行って現状に即した介護計画を作成している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様々な気づきを申し送り「引き継ぎノート」にて職員間で情報を共有し、常に話し合い、実践に繋げている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々に合わせ、その時の状況に合ったケアを実践している。又、ドライブ・買い物等にも出掛けたりしている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	元気だったあの頃の友人が面会に来て下さっている		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関とは24時間連携を図り、緊急時も適切な対応ができています。受診の際は身体や生活状況を記した書類を主治医に提出し連携を図っている・御家族様が県外の方は同意の元職員が代行している。	協力医療機関とは24時間連携が図られ、緊急時も適切な対応がなされている。他科受診については本人・家族の状況に応じてホームからも受診同行している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>日常的に情報交換を行い、状態変化等の場合は相談し、受診の必要性の判断や助言を得ている。連絡の取れる体制になっている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入退院時情報提供を行い、医療機関と情報を共有している。入院中、職員、管理者が訪問し、退院を含め、今後の方向性について話し合っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>契約時に本人・家族の希望を聞きホームの対応方針や事業所が対応し得る支援について説明し、利用者様の状況に応じて段階的な話し合いを行い情報や方針を共有しながら支援している。</p>	<p>重度化や終末期におけるホームの方針は入居時に説明している。入居後は医師の判断の下家族と方向性を話し合い本人・家族の希望に沿ったホームでできる最大限の支援に取り組んでいる。これまでも看取りの経験があり家族・主治医・職員がチームとなって支援している。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>マニュアルがあり、急変時にも速やかに対応できるように備えている。緊急蘇生法の研修等にも参加している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回の防災訓練を行い、消火器・消火栓の使い方の訓練を行っている・地域の方々にも協力依頼をしている。</p>	<p>年2回昼夜間想定で消防署立会のもと避難訓練を行っている。これまでに近隣住民や運営推進会議のメンバー、家族、地元消防分団の参加もあり地域との協力体制も築かれている。スプリンクラーは設置済みで備蓄も確保されている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの配慮については相手の立場になって考えるようにしている。「一人一人の個性を活かしたゆとりある生活を大切に」という理念に添い会議等において振り返り・話し合い、謙虚な姿勢を忘れない努力をしている	法人全体として人権侵害ゼロの実現に取り組んでおり、全体会での勉強会や業務の中でも職員間で注意し合うなど資質の向上に向け取り組んでいる。特に排泄では利用者に気を使わせることのないように羞恥心に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いを表出し易いように、職員から話題提供を図ったり選択方式で自己決定を促すなど、ケアの中でさりげなく働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の体調や気持ちを考慮し誘導している。「決して無理強いしない」が原則となっている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	好みに応じて衣服を着て頂いたり、化粧の習慣がある方は継続して楽しんで頂いている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材切り・盛り付け・茶碗拭きなど出来る方のできる事をして頂き、利用者様と職員が楽しみながら一緒に行っている。利用者様の好きな物・嫌いな物を理解した上でバランスのとれた利用者様全員が喜ばれるメニュー作りに努めている。	食事が安全で楽しみなものになるように家庭菜園の野菜や旬の食材をふんだんに使用し、調味料から手作りして栄養バランスのいい家庭的な食事を提供している。ときには、外食に出かけた時、園庭や東屋を利用してお茶やお弁当、バーベキューなどを行うなど「食」が楽しみなものとなるようさまざまな趣向を凝らしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひとり の状態や力、習慣に応じた支援をしてい る	毎日食事量・水分量のチェック をし・不足しないように努めて いる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないよう、 毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の 力に応じた口腔ケアをしている	誤嚥性肺炎の予防を行い、義歯 の方は洗い残しがないかの確認 を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、 一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣 を活かして、トイレでの排泄や排泄の自 立に向けた支援を行っている	出来る限りおむつを使わない方針で 対応している。尿意・便意のな い方も排泄パターンをつかみ、 日中はパンツとパットにする等可 能な限り自立に向けて個別支援 をしている。	排せつチェック表を作成して個々の排 せつパターンを把握し、日中はトイレ 誘導を行ってトイレでの排せつを支援 している。自立している利用者もおり 入居後に改善された利用者も多い。ま た、ホームの方針として身体状況に問 題がない限り紙おむつを使用しない支 援に取り組んでいる	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲 食物の工夫や運動への働きかけ等、個々 に応じた予防に取り組んでいる	排便状態を確認し水分補給や食事 量・服薬等の調整を主治医の指示の 元調整を行っている。運動も本人に 話しながら継続できるよう誘導して いる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴は個別に行い、湯加減等、本人様の意向に合わせて対応している。入浴の際は利用者様との会話ができる貴重な時間と捉え、会話をしながら安全に入浴できるよう支援に努めている。	基本は一日おきではあるが個々の希望や身体状況に応じて柔軟に支援している。また、声かけの工夫やタイミングで無理なくスムーズに入浴してもらえよう努めている。ドライブがてら近くの足湯に出かけることもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の体調や希望に合わせて、休息ができるように配慮している。眠たい時は時間に関係なく居室・畳部屋にてゆっくり休んで頂くよう支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様の個々の内服薬に関して、薬の処方箋を職員が確認し、情報の共有を行っている。新規の処方があった場合は内容等を確認し、内服してからの状態を記録に残す等状態の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の職歴や生活歴を把握している。菜園の世話を日課にしている利用者様には、安全に行えるように見守り、必要時に声掛けをしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	身の回りの物や食べ物を買いにスーパーに行ったり、外食や近くの公園に散歩に行けるよう配慮している。各行事で町内会の催し物等四季を通じての屋外レクリエーションを実施し、気分転換や楽しみとなるよう支援をしている。	日常的に買い物同行やドライブに出かけたり、気候のいい日は園庭の散歩や東屋でお茶を飲むなど立地環境を活かしてホームに閉じこもらない生活を支援している。外出レクとして初詣・花火大会・初午祭見学・ホテル見学・季節の花見・もみじ狩り・外食などにも出かけ利用者に喜ばれている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お金を自分で管理されている利用者様には、家族と相談の上、管理できる範囲の金額でお任せしている。ホームでの管理の場合でも出納帳をつけ、毎月家族へ確認していただいている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>利用者様が電話を希望されている時は、家族の意向も踏まえて職員が対応し、円滑に会話ができるように支援している。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>季節に合った装飾を心掛けている。家族に了解を得た上でホーム内に行事や日々の写真を掲示している。又、家族の面会時は本人様と一緒に写真を撮っていただけるよう依頼し、利用者様の居室や廊下等に掲示している。</p>	<p>共用空間は明るく開放的で広々としておりダイニングとテレビのあるリビングに分かれ、メリハリのある生活が送れるように工夫されている。キッチンもオープンで利用者が手伝いやすい環境にあり食事の準備の光景や匂いなどは生活感を与えてくれる。また、共用空間を囲んで居室が配置されており夜勤帯でも見守りがしやすい造りである。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>好きな時に好きな事が出来る様に職員も注意し一人で過ごせるスペースを確保している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>利用者様や家族と相談し、居室には家で使用していたタンスや椅子等本人様が使い慣れた物を置けるようにしている。居室に家族の写真や利用者様が好んでいた品物を掲示している。</p>	<p>居室はウッドデッキに囲まれており、掃き出し窓で直接出入りができるため、明るく開放的で居室にいても閉塞感がない。家具の配置や持ち込みなど本人・家族と話し合っ居心地良く過ごせるように居室作りを行っている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>廊下や居室の移動線上に手すりを設置し利用者様が安全に生活できるようにしている。好きな時に好きな事ができるよう職員も工夫し一人で過ごせるスペースを確保している。</p>	/	/

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない